出土した埴輪の種類（図３）は、円筒埴輪、朝顔形埴輪、蓋形埴輪、不明形象埴輪が挙げられます。なかでも円筒埴輪片は、基底部片が多く、後世の改変で埴輪列などが切り崩された可能性が考えられます。また、基底部片のなかには規格がわかる資料もあり、底部高 12.5cm を測るものが見つかりました。造山古墳でみられる底部高のなかでも低い群の埴輪であるといえます。

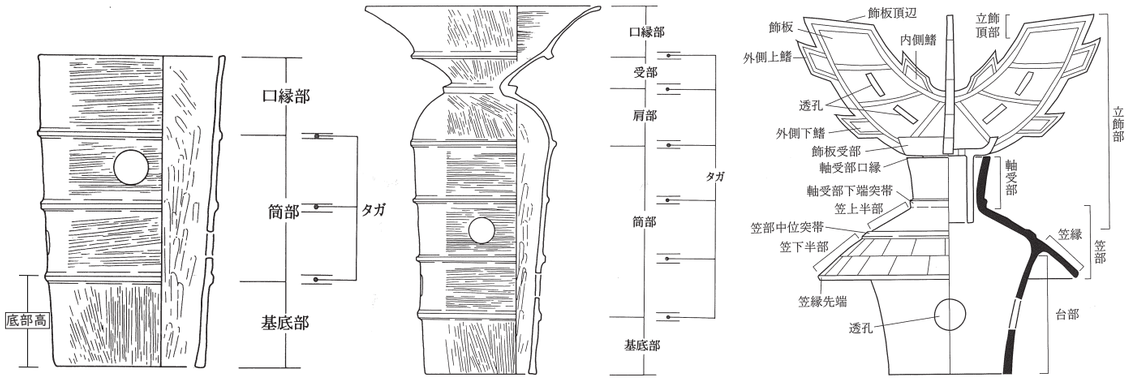


図３　円筒埴輪・朝顔形埴輪・蓋形埴輪の模式図と部分名称（左から）
※蓋形埴輪は、小栗明彦 2007「蓋形埴輪編年論」『埴輪論考 I』大阪大谷大学博物館　より

岡山市教育委員会広報専門官
「こらぽん♪」

このほかに、埴輪にヘラ記号を施したものも見つかりました。イチョウのような線刻文様（図４）や二重線の線刻（図５）が挙げられます。特に、二重線のヘラ記号の個体は新たに発見されたもので、今後、これらのヘラ記号の意味を探っていく必要があります。

図４　イチョウ状ヘラ記号

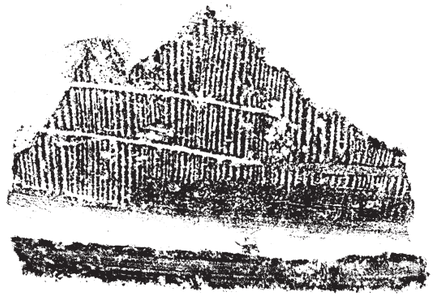


図５　二重線ヘラ記号

○さいごに

平成 26（2014）年からの造山古墳群の発掘調査によって、特に、造山古墳では、墳丘の構築方法や外表面の状況が徐々に明らかになってきました。今回の調査地点は、後世の改変によって残存状況は、芳しくありませんでしたが、前方部も高い位置まで地山を活用していたという点は、造山古墳築造を考えるうえで重要なデータを掴むことができたといえます。また、近年の発掘調査によって見つかった埴輪は豊富なバリエーションをもっており、造山古墳の埴輪について考えるうえでも重要な成果を得ることができました。前方部については、前方部の裾部分や各段のテラス面、斜面角度など墳丘構造を考えるうえで不可欠なデータが少ないという課題が浮き彫りになりました。今後も慎重に調査・検討を行っていく必要があるといえます。

国史跡 造山古墳　発掘調査現場公開資料

令和７年 11 月 16 日（日）　　於･造山古墳（発掘調査現場）
岡山市教育委員会・岡山市埋蔵文化財センター

○はじめに

岡山市教育委員会では、造山古墳の範囲確認調査を 10 月初旬より進めており、この度、確認された遺構および遺物を一般に公開するはこびとなりました。今回の発掘調査は、前方部第１段目斜面および第２段平坦面における古墳本体の残存状況の把握と「地獄田」と呼ばれる窪地の掘り込みおよび堆積状況の確認を目的として行っています。調査の結果、第１段目斜面に葺石と盛土、盛土によって整地された第２段テラスの一部を確認しました。

○造山古墳の概要

造山古墳は全国で４番目の規模を誇る前方後円墳で、５世紀前半の築造が考えられます。墳長は約 350 ｍであり、三段築成でくびれ部には造り出しが付属します。主たる埋葬施設や副葬品は不明ですが、前方部の頂上には阿蘇溶結凝灰岩製の石棺が存在しています。

これまでの調査で、各段の斜面にかかる葺石やテラスからは埴輪列などがみつかっています。また、築造後は備中高松城水攻めの際に城郭として使用され、現在でも土塁や曲輪、竪堀などの遺構が確認できます。

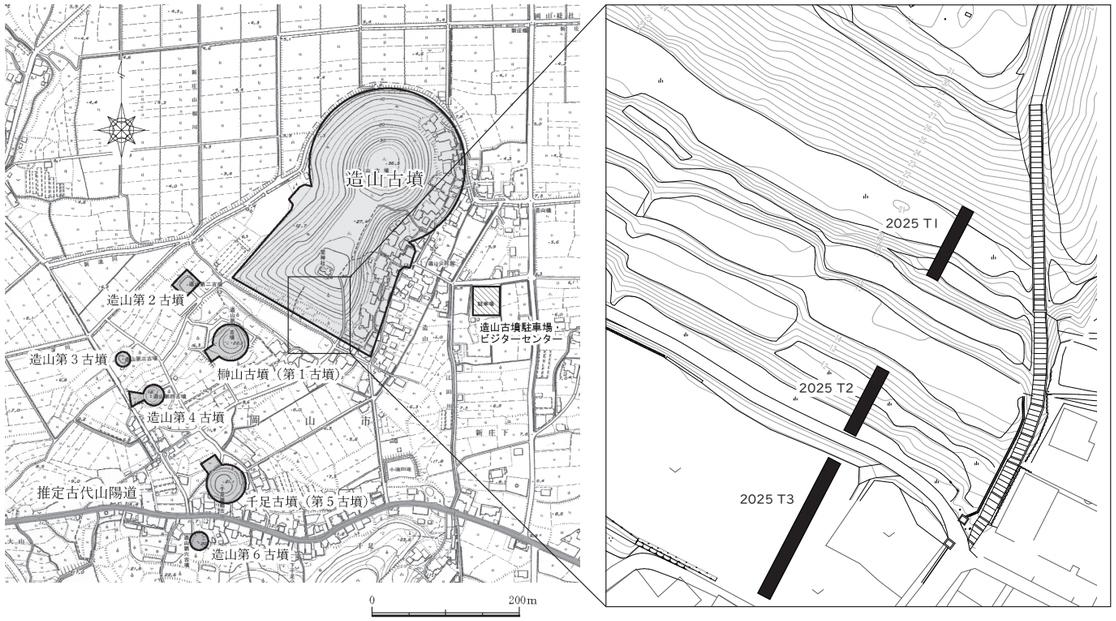


図１　造山古墳と周辺の古墳・トレンチ配置図

○調査区設定の目的と成果（図２）

前方部は、後円部でみられる城郭関連の改変ではなく、それよりも新しい時代に改変を受けています。このため、３段築盛である造山古墳は、本来、テラスが２面のみであるにもかかわらず、平坦な部分は、５面あるように見えます。そのため、古墳の前方部の改変と残存の状況、および築盛方法を明らかにしていく必要がありました。

● 2025 Ｔ１

＜目的＞

昨年度の発掘調査によって、後円部の墳頂にかかる斜面に岩盤状の地山（もともとあった丘陵部分）が発見され、築造する際、古墳の高い位置まで地山を削りだしていたことが明らかになりました。この築造方法が、前方部側ではどのようにみられるかの確認を目的に発掘調査を行いました。

＜成果＞

平面的にみられる土は盛土ですが、盛土の下の層から切り崩した地山の面を確認しました。この結果、前方部も高い位置まで地山を上手く活用して築造していたことが分かりました。また、第２段テラスの一部が残存していることも確認できました。しかし、耕作地を得るための後世の切り崩しやゴミ穴によって、第３段目斜面部の基底石や第２段テラスの埴輪列は残存していませんでした。

● 2025 Ｔ２

＜目的＞

2016 年度の発掘調査で前方部前端の葺石が見つかったことで、古墳の西側の墳裾を捉えることができました。ただ、一箇所のみの確認であり、前方部前端のラインは不明であったため、古墳の東側での前端部分検出を目的に発掘調査を行いました。

＜成果＞

前端部分にあたる基底石は確認できませんでした。しかし、斜面部では、一部葺石が残存することが確認できました。このトレンチの葺石に用いられた石は、割石で小ぶりなものが多いという点が特徴です。

● 2025 Ｔ３

＜目的＞

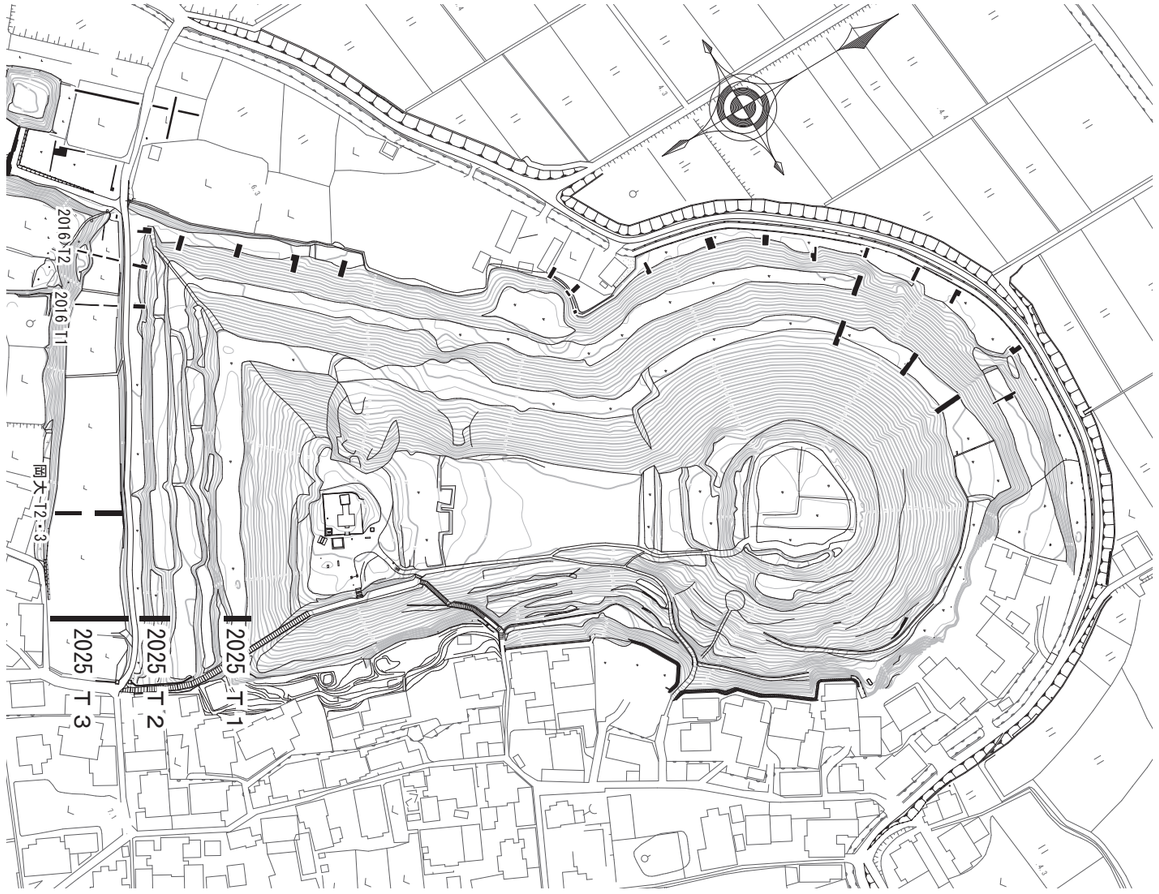
「地獄田」と呼ばれる窪地の性格や掘り込みおよび堆積状況の確認を目的に調査を行いました。

＜成果＞

花崗岩の風化した地山を確認しました。墳丘に近い地点では、細い素掘りの溝状遺構を検出しました。この溝は、窪地が掘りこまれて間もない時点で掘りこまれたものと捉えることができます。窪地が西側に向かって低くなっているため、排水などの役割を持っていたと考えられます。

○出土遺物について

今回の発掘調査では、多くの埴輪片が出土しました。これらの埴輪は、主に本来、墳丘のテラス面に並べられたものが風化や改変によって斜面の上側から転落し、堆積した層のなかから見つかりました。前方部側は、風化だけでなく、墳丘を後世に改変する段階があったため、多く埴輪片が混じっていました。



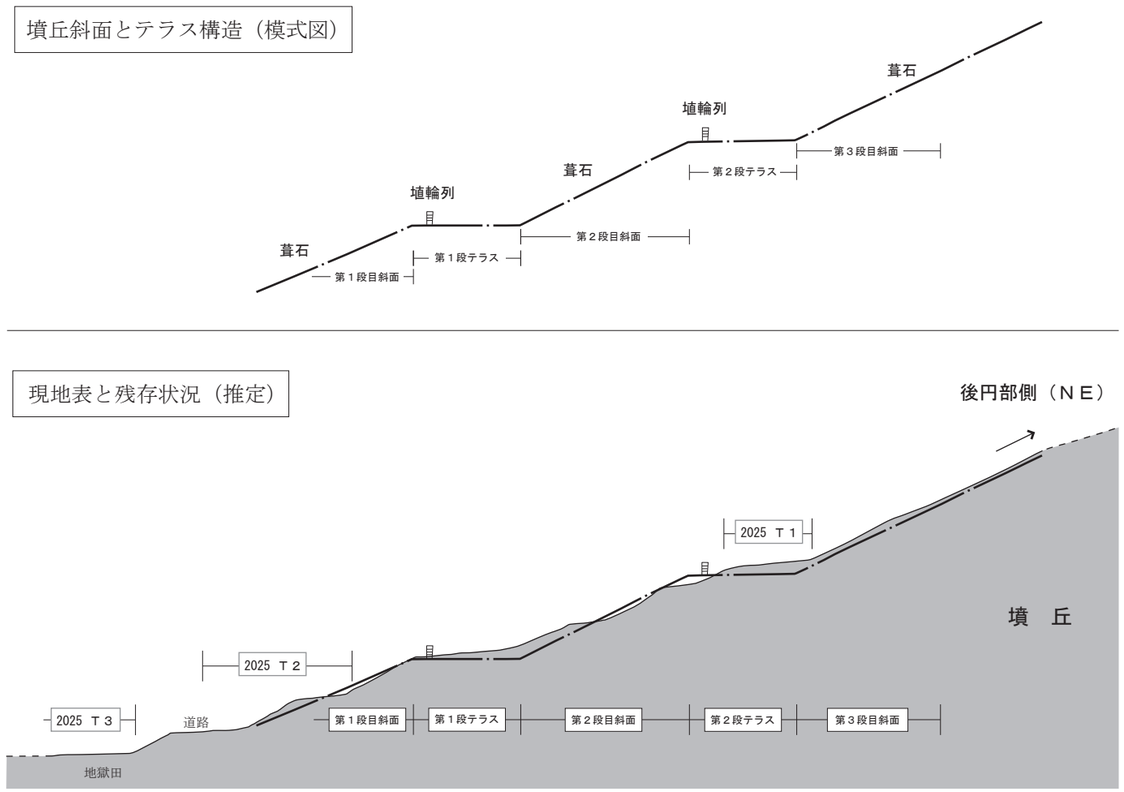


図２　墳丘の現状と推定墳丘構造